

mori もりもと moto

おかしはなし

Vol.05 きょうだいとぼたもち

「さぞおなかがすいたことでしょう。」

うつくしいじょせいは、ふたつの
ぼたもちとまよけのつつみがみを
くれました。



Produced by 2000
Picture Book Island



2000年 2000年
Illustrated by
**mori
moto**

むかしむかしあるところに、
きょうだいのりょうしがとしいた
ははおやとさんになでくらしていました。
あるとき、

きょうだいはりょうしにでかけていたところ、
きゅうにそらがくもり、うみはあれて、
しまにながれつきました。

「……………」
「あのあかりのあるところについてみようよ!」

そのころ、ふたりのかえりをしんばいした
ははおやは、おつきさまにふたつの
はたもちをそなえ、おねがいでいました。

「どうかどうかむすこたちを
ぶじでかえしてください!」

ふときづくとそなえたはたもちが、
きえてしまっていました……

「いっほうきょうだいは、
あかりのついたいえにあげてもらえよ!」

「なぜおなががすいすい泣いてるの?」
うつくしいじよせいはい、ふたりのおやと
まよけのつづみがをくらました。

はたもちをいっほうきょうだいに
おながいっほうきょうだいに

おながいっほうきょうだいに、おやとまよけ
をいっほうきょうだいに、おやとまよけ

をいっほうきょうだいに、おやとまよけ
をいっほうきょうだいに、おやとまよけ

をいっほうきょうだいに、おやとまよけ
をいっほうきょうだいに、おやとまよけ

をいっほうきょうだいに、おやとまよけ
をいっほうきょうだいに、おやとまよけ

をいっほうきょうだいに、おやとまよけ
をいっほうきょうだいに、おやとまよけ

をいっほうきょうだいに、おやとまよけ
をいっほうきょうだいに、おやとまよけ

をいっほうきょうだいに、おやとまよけ
をいっほうきょうだいに、おやとまよけ

をいっほうきょうだいに、おやとまよけ
をいっほうきょうだいに、おやとまよけ

をいっほうきょうだいに、おやとまよけ
をいっほうきょうだいに、おやとまよけ



sora's profile

北海道を拠点として活動する、絵本作家、イラストレーター。イラストによる絵本、それが制作したフェルトぬいぐるみを撮影したピクチャーブック、キャラクター開発などを手掛ける。また、自身の絵本による、子どもたちへの読み聞かせやライブペインティング、絵本作家としての講演や、テレビラジオ・雑誌などへの出演などの活動も展開。



きょうだいとほたもちの感想

北海道の長い冬もようやく終わりを告げ、うららかな春の陽射しも感じられる季節になってきますね。今回のおかしばなしのテーマは「小豆」ということで、「ほたもち」の昔話をご紹介しました。この昔話の中で二つの世界をつなぐ「ほたもち」は、二人のお腹を満たしながらも、神聖なものとしても扱われ、昔の人にとっての稲穂子の存在の大切さを感じます。「糧からほたもち」のことわざも、ほたもちは幸せの象徴ですね。出会いや別れもある春。みなさんにとって、明るい春が訪れますように……。



Booked by 2000
Picture Book Island



morimoto

あずきの
おかし

あかしずかん

ぼたもち

もち米とうるち米をたいてまるめ、
餡で包んだもの。お彼岸の供え
ものとして、春はぼたんの
花から「ぼたもち」、秋は
秋の花から「おはぎ」と
よばれているおかし。



どら焼き

打栗器の銅鑪の形に似ている
ことから名づけられ、大正時代に
全国に広まったといわれるおかし。

もち米で作った皮で、
餡を包みこんだもの。
各地でさまざまな
かたちがつくられ、
見たためにも
たのしいおかし。

もなか



(監修: 農学博士 加藤淳)